

都市再生整備計画 事後評価シート  
盛岡バスセンター周辺地区

令和7年12月

岩手県盛岡市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	岩手県		市町村名	盛岡市		地区名	盛岡バスセンター周辺地区			面積	62.5ha	
交付期間	令和2年度～令和6年度		事後評価実施時期	令和7年度		交付対象事業費	783.1百万円	国費率	50.0%			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業		道路(市道中ノ橋通若園町線、国道106号)、高次都市施設・複合交通センター(交通広場整備、バス待合室(買取))							
			提案事業		まちづくり活動推進事業・リノベーションまちづくり勉強会(区域全体)							
	当初計画から削除した事業		基幹事業		地域生活基盤施設(自転車駐車場)(駐輪場)	事業の統合		整備箇所が高次都市施設(交通広場)の通路部分と連続しており、後者と一体で整備することとしたため目標等への影響はない。				
			提案事業		事業活用調査・事業効果分析業務(区域全体)	他事業との調整		当該事業を直営での実施に切り替えるとともに、同事業費をまちづくり活動推進事業(リノベーションまちづくり勉強会)の内容拡充に組み替えることで、事業効果の向上が見込まれる。				
	新たに追加した事業		基幹事業		なし	-		-				
			提案事業		なし	-		-				
交付期間の変更		当初	令和2年度～令和6年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-					
		変更	-									
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値					
	指標1	周辺歩行者・自転車通行量数	人/日	8,515	H30	8,515	R06	10,058	○	あり - あり	バスターミナル機能の再開に加えて、併設された商業施設やホテルの集客が増加したことによると考えられる。	-
	指標2	周辺観光施設来場者数	人/年	82,926	H30	103,000	R06	140,932	○	あり - あり	バスターミナルとしての拠点性と地域における集客の核としての機能が整ったこと及び複合商業施設「monaka」完成(令和6年7月)により、周辺施設への波及効果が生じたと考えられる。	-
指標3	周辺宿泊施設宿泊者数	人/年	41,652	H30	60,000	R06	72,114	○	あり - あり	施設内に新規開業した宿泊施設の客数が純増となった影響が大きいと考えられるが、その他宿泊施設の客数も増加した。	-	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1		盛岡バスセンター周辺地区内のマンション建設棟数	棟	20	H30		21			交通だけではなく、賑わいの拠点としてエリア内の価値向上に繋がったものと考えられる。	-
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>商業施設としての通常営業に加えて、施設を活用したビアフェスやスタンプラリーなどのイベントが開かれるようになったことで滞在目的の多様化、快適性が図られ、バス利用者に限らない広い集客が可能となった。</li> <li>施設整備以前から市と連携していた近隣の盛岡市肴町商店街振興組合と更なる協力が図られ、施設整備後におけるエリア内の不動産利活用に向けた検討が活発化した。</li> <li>施設のコンセプトである「ローカルハブ」として、盛岡バスセンター内にオープンした宿泊施設を拠点に盛岡広域を観光するという旅行スタイルがみられた。</li> </ul>											
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等	
	モニタリング		なし				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-	
	官民連携による取組		公民連携まちづくり勉強会を実施し、地域の商店街等を中心とした組織と協力して盛岡バスセンター周辺における公共空間の活用等について検討、結果に基づいて広場整備の社会実験を行った。				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 官民の連携体制を活かし、引き続きエリアの魅力、価値向上に取り組む。	
	持続的なまちづくり体制の構築		なし				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-	

## 様式2-2 地区の概要

### 盛岡バスセンター周辺地区(岩手県盛岡市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
訪れやすい環境の創出と地域の魅力に触れることができるエリアの形成 ○ 新バスセンター整備事業を推進し、交通結節点としての機能を充実・強化し、地区内の集客力及び回遊性の向上を図る。 ○ 周辺商店街との連携及び地域資源の活用により地域の活性化を図る。	周辺歩行者・自転車通行量数	単位: 人/日	8,515	H30	8,515	R06	10,058	R04
	周辺観光施設来場者数	単位: 人/年	82,926	H30	103,000	R06	140,932	R06
	周辺宿泊施設宿泊者数	単位: 人/年	41,652	H30	60,000	R06	72,114	R06

**基幹事業(道路)国道106号**

**関連事業(紺屋町番屋改修事業)**

**提案事業(まちづくり活動推進事業)**

**基幹事業(高次都市施設)交通広場**

**関連事業(バスセンター付帯施設事業)**

**基幹事業(道路)中ノ橋通若園町線**

まちの課題の変化	<p>○バスターミナル機能の充実強化 ⇒旧バスターミナルの閉鎖による発着場所の変更やバス待合の利便性低下が解消され、交通結節点としての機能向上が図られたが、バスの運行数が減少傾向にある。</p> <p>○にぎわい空間の創出 ⇒バスターミナル機能だけでなく、エリアにおける集客施設、賑わいの核として機能しており、そうした機能の継続、向上の取組が必要となる。</p>
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史、自然、文化、商業、人等のエリア毎の地域資源を活かした事業・取組により、「居心地が良く歩きたくなる」まちなかを形成する。</li> <li>・車中心から人中心の街路空間へ道路空間を再配分することにより、安全で快適な歩行空間の整備を進めるとともに、エリア内外をつなぐ基幹交通であるバスや自転車等の二次交通の交通機能(走行性、接続性)を確保するための環境を整備することにより、都市機能の充実を図る。</li> <li>・道路、河川、公園等の公共空間及び空き店舗、空地等の民間の遊休不動産を一体的に活用し、持続可能な民間主導の公民連携の取組を行うことにより、エリアの魅力及び価値を高め、居住人口、関係人口、交流人口の増加を図る。</li> </ul>